

人工知能を用いた人とシステムの 関わりのリデザイン（再設計）

Keywords 特化型人工知能, マルチメディアシステム, システム支援, 教育

01 本研究の適用分野・用途

- 自動車の運転支援・練習支援システム
- 危険予測の能力向上システム
- 高齢者の運転支援システム
- 合意形成支援・学習支援システム
- 特別支援学級における教育支援システム

02 アピールポイント

- 人の活動の高速化ではなく、高度化を実現
- 一般的なシステム利用は、現在の活動の高速化やシステムによる代替が目的だが、本研究では人の活動の質を高めることが目的
- あらゆる人の活動に適用可能

研究概要

基本アプローチ

対象を人工知能的に捉え直すことによって構造化し、本質的にはどのような活動なのかをモデル化します。これにより、もともと人が無意識に行っていた作業が明確化され、従来見えなかった視点が見えてきます。これを、対象となる活動の再設計(リデザイン)と呼んでいます。

このモデルに基づき、どの部分をどのように人が行い、どの部分をどのようにシステムに支援させるかを考察することで、人の活動の高度化や、人の活動を支援する位置づけとしての支援システムの設計・開発に取り組んでいます。

実装例概要

(1) 自分自身で楽しく運転するための運転支援

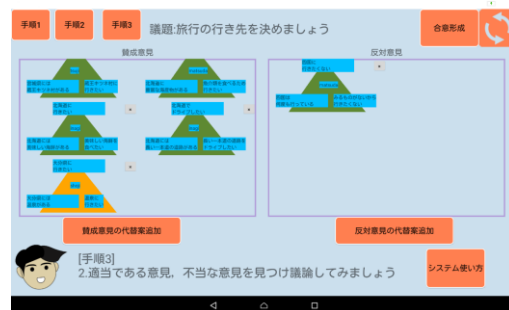
車が機能の一部を代替するのではなく、あくまで人が自身で運転をしながら、運転負荷を低減することで安全運転を実現

(2) 参加者自身で納得するための合意形成支援

合意形成をシステムが代替するのではなく、参加者が議論内容を適切に操作しながら合意することを支援



カーブの運転支援システム(投影部)



合意形成支援システム(一部)

